

平成29年度文化庁日本語教育大会・大阪大会  
<2日目：10月1日（日）10:00～12:00>

## 「日本語教育人材のキャリアパス

### ～現場で活躍する先輩に直接聞いてみよう！～

日本語教師が活躍する分野は多岐に渡ります。それぞれの現場で専門性を発揮し、活躍する日本語教育人材の皆さんに、現場で今取り組んでいることや課題、これまでのキャリアパスなどについて、直接お話を聞ける場を作りました。

職業として日本語教育に関わる先輩に、進路の相談や現在の課題について直接聞いてみましょう。

- 全2回，12セッション（各セッション定員5名）  
第1回：10:00～10:45 第2回：11:00～11:45



#### ●先輩スピーカー●

1. 海外で教える（1）（国際交流基金派遣専門家経験者）  
和栗 夏海（わぐり なつみ）さん（独立行政法人国際交流基金 関西国際センター）
2. 海外で教える（2）（JICA青年海外協力隊経験者）  
蛭沢 ふみ（えびさわ ふみ）さん
3. 外国人研修生に教える  
矢島 康江（やじま やすえ）さん  
（一般財団法人海外産業人材育成協会（AOTS）関西研修センター）
4. 技能実習生に教える  
藤原 麻佐代（ふじわら まさよ）さん（ハノイ：HAI PHONG 株式会社日本語センター）
5. 看護・介護職希望者に教える  
山崎 久美子（やまさき くみこ）さん（ARC大阪日本語学校）
6. 難民に教える  
中野 美紀（なかの みき）さん（公益財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部）
7. 小学校で教える  
坂田 ほなみ（さかた ほなみ）さん  
（大阪市立木川小学校 帰国・来日等の子どもの帰国センター）
8. 日本語指導員として教える  
森 典子（もり のりこ）さん（豊中市教育委員会 国際教室 日本語指導員）
9. 高校生に教える  
有本 昌代（ありもと まさよ）さん（大阪府立門真なみはや高等学校）
10. 夜間中学で教える  
安野 勝美（あんの かつみ）さん（東大阪市立長栄中学校夜間学級）
11. NPO法人で生かす  
土井 佳彦（どい よしひこ）さん（NPO法人多文化共生リソースセンター東海）
12. ウェブデザイナーとして生かす  
角南 北斗（すなみ ほくと）さん（フリーランス）

※本セッションは事前予約制です。9月30日（土）大会1日目終了後に会場受付にて事前予約を受け付けます。

残席がある場合、10月1日（日）9:30から会場にて申込みを受け付けます。

## 1. 海外で教える（1）国際交流基金派遣専門家経験者

国際交流基金関西国際センター・日本語教育専門員

和栗 夏海（わぐり なつみ）さん



### <プロフィール>

高校時代に留学生に出会い、日本語教師になることを夢見て、大学・大学院で日本語教育について学びました。大学院修了後すぐに、国際交流基金の日本語指導助手として、カザフスタン日本人材開発センターで1年、日本語を教えました。その後、国際交流基金の日本語専門家として、フィリピンにある国際交流基金マニラ日本文化センターで3年間、勤めました。大学での非常勤講師を経て、現在は、国際交流基金関西国際センターで、eラーニングの開発に携わっています。

### <メッセージ>

海外の現場で携わった仕事は、教室内で学習者に日本語を教えることに留まらず、高校生のための教材制作や日本文化イベントの企画・運営、日本語教師のための研修会実施等、多岐に渡り、学生時代に思い描いていた日本語教師の仕事の範囲を大きく上回るものでした。私自身、未経験の業務が多く、不安に感じることもありましたが、周りの経験豊かな先生方等に助けていただきながら、現地で何が求められていて、自分は何をしなければならないか考え、行動してきました。振り返れば、海外の現場での日々が、私自身の教師としての引き出しを増やしてくれたように思います。

## 2. 海外で教える（2）JICA 青年海外協力隊経験者

蛭沢 ふみ（えびさわ ふみ）さん



### <プロフィール>

東京出身。

営業として働いていたが、結婚しても子供を産んでもずっと使えるスキルが欲しいと考え、2014年4月から養成講座に通い、日本語教育について学ぶ。その後、2015年7月から青年海外協力隊としてバングラデシュ（ジャハンギナガル大学）に派遣されるが、派遣後約1年で治安の悪化によりエジプト（アスワン大学）へ任国変更となる。2017年7月に帰国、この10月から国内の日本語学校で勤務予定。

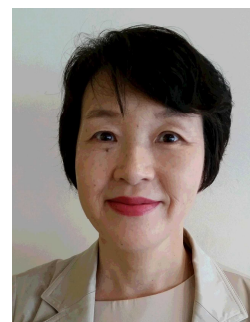
### <メッセージ>

日本語教師としては知識も経験も浅い新米ですが、これから日本語教師になろうという方、今現在養成講座に通っている方、海外やJICAボランティアに関心がある方、いろいろな働き方があると思いますのでこの機会にぜひいろいろな方のお話をぜひ聞いてみてください。

### 3. 外国人研修生に教える

一般財団法人海外産業人材育成協会（AOTS）  
関西研修センター 研修実施グループ長補佐  
兼 日本語教育センター 職員

矢島 康江（やじま やすえ）さん



#### <プロフィール>

筑波大学で言語学を専攻。筑波大学大学院修士課程地域研究研究科在籍中に、中華人民共和国中山大学に留学。大学院修了後、AOTSに入職。2年間本部職員として勤務後、東京研修センター研修課日本語班に異動し、日本語教育訓練を受ける。その後、横浜研修センター、関西研修センターにて、常勤日本語講師として勤務。この間、『新日本語の基礎Ⅱ』絵教材、映像教材、聴解教材の開発にも携わる。現在は、研修の実施管理を担当。

#### <メッセージ>

AOTS では、技術研修生や EPA のインドネシアやフィリピンの看護師・介護福祉士候補者への日本語研修を行っています。1) 技術研修生は、技能実習生とは異なり、日本での滞在は1年未満と短く、企業では「働く」のではなく、「研修」を行います。日本語は、企業での研修の前に、AOTS の研修センターで、6週間もしくは13週間の短期間で学習します。研修現場ですぐに日本語が「使える」ように、授業では話す・聞く練習を重視し、研修生が実際に遭遇する場面を想定した「活動」や「タスク」、日本語ボランティアとの実践会話、教室外でのグループ活動等も取り入れています。2) EPA の看護師・介護福祉士候補者には6ヶ月の日本語研修を実施しています。生活や就労に必要な総合日本語と、看護や介護に特有な専門日本語をバランスよく学ぶカリキュラムを採用しています。自律学習能力の養成も行います。

技術研修生も看護師・介護福祉士候補者も、日本語の能力が研修や就労での活動に直結しますので、学習意欲も高く、大変熱心に日本語学習に取り組んでいます。

### 4. 技能実習生に教える

HAI PHONG 株式会社日本語センター（ハノイ）日本語講師

藤原 麻佐代（ふじわら まさよ）さん



#### <プロフィール>

生涯学習センターの職員として「外国にルーツを持つ子どもの教室」立ち上げの助成事業を担当したことをきっかけに「外国にルーツを持つ子どもの日本語教育」に携わりたいと思い、大学院で日本語教育を学ぶ。

大阪府立高校で外国にルーツを持つ子どもの日本語教育を担当。地域日本語教室で「外国にルーツを持つ子ども」に関わる。

技能実習生を受け入れている企業から日本語教育を依頼され、技能実習生の日本語教育に興味を持ち、日本の受け入れ組合で日本語研修を担当。

日本で第二言語として日本語を教えるだけでなく、海外で外国語としての日本語を教えたいと思い、現在、ベトナム/ハノイの技能実習生送り出し機関で教えている。

#### <メッセージ>

日本語の難しさ、日本語が持っている表現の豊かさを感じつつ、「教えること」「人との関わり」を楽しんでいます。

## 5. 看護・介護職希望者に教える

ARC 大阪日本語学校・専任講師

山崎 久美子（やまさき くみこ）さん



### <プロフィール>

一般企業にて勤務の後、2005年からアークアカデミーで留学生や社会人学習者への日本語教育を担当する。2009年から日本語教師養成講座の主に実技・教育実習を担当し、日本語教師の養成にも携わる。2013年12月から2年間ベトナムハノイにてEPA 看護師・介護福祉士候補者に対する日本語研修事業を担当。帰国後は、留学生や社会人学習者への授業を担当している。

### <メッセージ>

日本の看護・介護現場で学びたいという志高いEPA 看護師・介護福祉士候補者に、一人でも多く日本で活躍してもらうために、OレベルからN3合格を目標に指導にあたりました。来日後、候補者が看護・介護の現場で、また生活の場で必要になるコミュニケーション力の養成にも力を入れておりました。今後介護の現場での活躍が期待される人材への日本語教育について、少しでも現地での話ができればと思っております。

## 6. 難民に教える

公益財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部  
日本語教育相談員

中野 美紀（なかの みき）さん



### <プロフィール>

大学卒業後、タイ国アユタヤ教育大学、及びブラパー大学にて通算4年間日本語科講師として勤務する。帰国後は一般企業の事務職と日本語学校講師を掛け持ちしつつ、青年海外協力隊（日本語教師）にチャレンジ。2002年から中国東北部の高校に派遣される。2005年から現職。2016年より（特非）神戸定住外国人支援センター主催「神戸生活日本語普及推進事業」外部運営委員を務める。

### <メッセージ>

ヨーロッパを目指して海を渡るシリア難民の様子を様々なメディアでご覧になった方も多と思います。「日本に難民はいるのかな?」「難民に教えるってどういうことだろう?」と関心をお持ちになった方もいらっしゃるかもしれませんね。実は日本にはインドシナ難民、条約難民、第三国定住難民の3つのカテゴリーに属する難民の方々がいます。

私が主に関わっているインドシナ難民、条約難民の方々に対する支援を中心にお伝えしたいと思います。



## 7. 小学校で教える

大阪市立木川小学校

帰国・来日等の子どもの帰国センター 教諭

坂田 ほなみ（さかた ほなみ）さん



### <プロフィール>

大阪市内で学級担任の後、日本語指導に携わる  
2013年より木川小学校『帰国・来日等の子どもの帰国センター』を担当

### <メッセージ>

現在『帰国・来日等の子どもの帰国センター』には、17名の外国にルーツのある児童が在籍しています。

学校現場での日本語指導の様子を具体的な例を挙げてお話できれば・・・と思います。まだまだ経験の浅い中でのご報告になりますので、参加者の皆さんとの意見交流の中で私自身も「学びの場になりたい」と楽しみにしています。

## 8. 日本語指導員として教える

豊中市教育委員会 国際教室 日本語指導員

森 典子（もり のりこ）さん



### <プロフィール>

東京都出身。オーストラリア留学を経て、外資系企業に勤務。1997年に大阪へ引っ越した後、ボランティアとして日本語交流活動に参加したことが契機となり、2007年から豊中市教育委員会学校英語通訳者として「外国にルーツを持つ」児童生徒とその保護者の支援に携わる。2012年からは同教育委員会事業の国際教室で日本語指導及び学習支援もする。大学では非常勤講師として、国際コミュニケーション科目と日本語を教え、サービスラーニングの引率者としてフィリピンを訪問。フィリピン台風洪水被災地へ支援物資送付と外国人保護者へ母語保持啓発の市民活動も行なっている。

### <メッセージ>

日本語指導員は、市民コーディネーターとして学校、家庭、地域と関わることも大きな役割のひとつだと考えています。限られた時間の中で効果的に日本語学習を進めるためには、子どもたちの生活の軸となる学校や家庭との連携が必須です。また、「多様な文化と言語を持つ」子どもたちが安心して暮らし、自分たちのルーツに自信をもって成長していける環境作りには、地域の理解と協力が不可欠だと痛感しているからです。

## 9. 高校生に教える

大阪府立門真なみはや高等学校 日本語指導担当

有本 昌代（ありもと まさよ）さん



### <プロフィール>

大学・大学院にて第二言語習得、日本語教育について学ぶ。オーストラリアでの日本語アシスタント、タイの大学での日本語専任講師、インターナショナルスクールでの日本語指導を経て、2012年より現在の学校にて日本語指導に携わる。年少者への日本語教育について研究し、単に日本語指導だけではなく、日本語学習と教科の学習とを結びつけ、第二言語としての日本語での学習言語を身につけられる授業の実践を行っている。外国人の生徒たちが今後日本で暮らすために必要な日本語力、知識、考える力を伸ばす教材の開発にも積極的に取り組んでいる。

### <メッセージ>

公立学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒の数は年々増えつつあり、また多様化しつつあります。外国人の児童生徒たちが日本の学校で学ぶことは、将来世界と日本をつなぎ、さらに日本人の生徒たちにもよりグローバルな視点で世界に関心を持ち、活躍する力を身につけることにつながると期待しています。小中高校における日本語教育は、言語習得とともに考える力、考えを伝える力を育てる大切な時期になります。その大切な教育に関わってもらえる人が今後もっと増えてくれることを期待しています。

## 10. 夜間中学で教える

東大阪市立長栄中学校夜間学級 常勤講師

安野 勝美（あんの かつみ）さん



### <プロフィール>

- 1982年より、公立中学校教員。外国人教育に関心を持ち実践活動等。
- 90年代より、新渡日の子どもの増加に伴い、日本語教育等に支援の活動。
- 子どもの日本語教育も気がかりだが、それ以上に保護者・大人の日本語力が課題。  
地域での日本語教育の場作り
- 2000年代、学校での日本語教育についての調査研究。  
「JSL事業」から「DLA」へ
- 2013年に退職するも、2016年4月から、（ひよんなことから）夜間中学に勤務

### <メッセージ>

- 日本語教育は、外国人のためというより、日本社会のためです。
- 自分も大切ですが（「だから」というべきでしょう）、周りの人も大切です。

## 1 1. NPO 法人で生かす

NPO 法人多文化共生リソースセンター東海・代表理事

土井 佳彦（どい よしひこ）さん



### <プロフィール>

広島市出身。大学で日本語教育を学び、卒業後は留学生や海外技術研修生らを対象とした日本語教育に従事。同時に、地域の日本語教室にもボランティアとして参加。2008年度より、多文化共生分野の中間支援 NPO「多文化共生リソースセンター東海」の設立に参画し、代表に就任。翌年 NPO 法人認証、代表理事となり現在に至る。2016年度より、文化庁「地域日本語教育スタートアップ事業」でアドバイザーを務める。年間 50 回程度、地域日本語教室の運営改善や人材育成に関する研修を担当。

### <メッセージ>

「NPO って、食べていけるんですか？」と、今まで数え切れないくらい聞かれました。答えはもちろん、食べていけてますよ。むしろ、日本語学校や大学で非常勤講師をしていたころのほうが、生活は苦しかったです（苦笑）。「いったい、どうやって・・・？」その答えは、会場で。

## 1 2. ウェブデザイナーとして生かす

フリーランスのウェブデザイナー

角南 北斗（すなみ ほくと）さん



### <プロフィール>

大阪大学で日本語教育学を専攻。在学中から独学で IT を学び、国際交流基金関西国際センターの教材開発やサイト構築に携わる。博士前期課程修了後、2005年よりウェブデザイナーとしての活動を本格的に開始。教材開発、授業における IT 活用の支援、情報デザイン分野の講師業などを行なっています。

Website <http://sunamihokuto.com>

### <メッセージ>

日本語教育に関わる仕事は、自身が直接教えることだけに限りません。教師と協力して現場の問題を解決する、教室に通わない学習者を教材やサービスを通して支援する、といった仕事もあります。そして、そうした仕事をするうえで、IT やデザインの分野の知見は、現在も今後も大いに役立つと考えています。こんな働き方もあるんだな、ということを知ってもらえればと思います。